慈雲尊者の五条衣について

川口高風

江戸中、後期に活躍した正法律の開祖慈雲尊者（慈雲飲光、一七一八－一八〇四）に「千衣裁製簿」[1]がある。千衣の衣財、種類、色、縫い方、大きさ、裁製した人、助針者、受持者、製作年月日などが記されている。

千衣裁製の発願は長栄寺（東大阪市高井田元町）の護明による序によれば、

禅尼照公従来有信在家也。斎戒浄行出家也。依遵正法。明和三年丙戌正月冬安居竟之日。裁製安陀衣乙襲来。奉現前僧伽曰。此衣為首漸次製千領。奉之如法僧伽。願斯勝上福田。植仏種子生長覚芽。正法之樹茎幹牢固。枝葉扶疏普覆法界。一切衆生証二転依妙果。……今也禅尼之発願異世同趣。夫千領正則之衣。奉施千正法僧伽。則千衆儼然以正威儀維持正法。

とあり、禅尼照公によるという。また、巻末の記によれば、

右一千衣竟

慈雲尊者千衣御袈裟御成就之御願心文化二年に成就竟也

とあり、尊者の発願という。

このように両説あるが、両者の発願ともいえ、明和三年（一七六六）正月から文化二年（一八〇五）までの四十年間に製作されたものである。

その中から五条衣をピックアップしてみると、五条、五条衣、安陀衣、安陀会と紹介しており、計一一三点がある。それを若い番号順にとりあげてみると、

第一衣

木蘭色。安陀衣。帖葉。五条。一長一短。馬歯縫。財体紵布。中量長六尺八寸余。広四尺二寸半余。助鍼慧日式叉尼。助鍼義文求寂尼。明和三年丙戌正月十六日奉施高井田寺現前僧伽。和尚位飲光受持。

第四十一衣

木蘭。紵布。五条。帖葉。極小二肘四肘。慧日式叉裁縫。飲光護持。

第五十五衣

極小光肘。二四肘。壊色。帖葉。五条。有部非許非遮之制。本朝紵布狭幅。其製五条不レ得レ然。故且意為通剋也。安永二年冬十月八日。法与尼裁製。飲光受護。

第六十四衣

古終布。壊色。二四肘。帖葉。五条。義文沙弥尼裁綴。禅照施財。飲光護持。

第八十二衣

紵布。木蘭。五条。割截作。中肘極小。長六尺広三尺。馬歯縫。明和九年壬辰十一月十八日成。義文沙弥尼裁製。飲光受持。

第八十四衣

古終布。壊色。帖葉。五条衣。二肘四肘極小量。慈眼菴実如沙弥尼裁縫。

第九十七衣

麻。木蘭色。帖葉。五条。飲光自肘二四肘極小量。安永二年癸巳五月廿七日神光院慧享裁縫。安永二年九月七日託ノ二黙堂律師ニ一。属ス二之ヲ市川無住居士ニ一。明日八日。

第一百衣　無名

紵布。木蘭色。五条。極小二四肘。帖葉。鳥足縫。

第一百三衣

古終麁布。壊色。五条。帖葉。有部非許非遮之制。飲光自肘極小量。義見裁縫。

第一百五衣

紵布。木蘭。帖葉。馬歯縫。飲光自肘極少量。五条。安永三年三月。義影裁縫。二宮御衣。蓮心院殿施与。飲光受持。後属ス二之ヲ即信ニ一。

第一百九衣

紵布。木蘭色。帖葉。飲光自肘小量。二四肘。安陀会。安永三年三月廿九日成。普照尼裁縫并施財。

第一百一十八衣

紵布。木蘭。五条。割截。馬歯。小量二四肘。体飲光自以浄財。安永三年四月廿三日成。義見尼裁縫。属ノ二蓮心院通子ニ一護持セシム。

第一百一十九衣

紵布。木蘭。五条。割截。馬歯。小量二四肘。属ノ二慧照尼ニ一護持セシム。安永三年五月十二日成。義名裁。

第一百二十衣

紵布。五条。同上。普照尼護持。安永三年五月廿三日成。慧言尼裁。

第一百二十三衣

布。小量。割截。木蘭色。五条。安永三年六月十日成。宗悟尼裁製。属ス二醫縁諦道ニ一。

第一百二十四衣

紵布。小量。五条。木蘭。馬歯縫。安永三年六月十五日。慧言尼裁。

第一百三十四衣

細紵布。五条。木蘭。割截作。小量。安永三年七月十一日成。義影尼裁。

第一百三十五衣

細紵布。五条。木蘭。割截作。小量。安永三年七月十三日成。慧享尼裁。

第一百四十五衣

細紵布。木蘭色。極小量。安陀会。帖葉。安永四年二月十八日成。

第一百五十四衣　

紵布。木蘭。五条。馬歯縫。安永五年丙申五月。恵日式叉製。慧享助針。

第一百五十九衣　

紵布。木蘭。帖葉。五条。馬歯縫。安永五丙申十月。義禎尼裁。伊賀蓮性尼へ与。

第一百六十衣　

古終布。木蘭。帖葉。五条。小量。安永五丙申十月。智碩裁縫。

第一百六十三衣　遠山。飲光護持。

納衣。安陀会。貼葉。二四肘。安永五年丙申十二月廿五日裁。義禎尼製。つたへては遠山鳥のおろのおの。ながくも法の鏡ともなれ。

第一百六十四衣　　帝須沙弥護持。

紵布。青色。飲光自肘二四肘。安陀衣。安永六年丁酉正月四日。義見尼裁。

第一百六十五衣　

紵布。二四肘。割截。五条。青色。安永六年正月六日。法護沙弥護持。

第一百六十七衣　

紵布。割截。青色。五条。二四肘。馬歯。安永六年二月十五日。慧言裁。

第一百六十八衣　　飲光護持。

壊色。五条。割截。青色。紵布。馬歯。二四肘。収仏舎利乙粒。安永六年丁酉二月廿六日。宗悟尼裁製。

第一百七十四衣　

木蘭。細紵布。五条。馬歯。財体円成居士遺捨。実如沙弥尼裁縫。安永七年戌二月十三日成。付浄光沙弥。

第二百四衣　

雑砕衲衣。五条。木蘭。割截。飲光護持。安永九年庚子五月廿五日成。宗悟尼裁。

第二百十七衣　

紵布。青色。帖葉。鳥足。五条。転輪寺真冏自弁財体。自護持。安永五年庚子九月十日転輪寺某尼裁。

第二百十八衣　 　飲光護持。

琉球国布。木蘭。割截。五条。中量。馬歯。近衛前関白太政大臣准后内前公為二其子准后女御維子一以二芳春和尚一求二呪願於予一。以二此財体一寄二芳春真岸和尚一。和尚付二之予一。安永九年庚子九月廿四日成。慧日裁。

第二百二十八衣　

雑砕紵布覆沙。極小量。五条。割截。馬歯。天明改元辛丑六月七日成。大日堂宗悟尼等裁。禅器比丘護持。

第二百三十九衣　

細紵布。同木蘭。五条。二四肘。馬歯。割截。天明二年丙寅三月十一日成。宗悟尼令二宗知尼一裁。信冏長老護持。

第二百四十六衣　

紵布。木蘭。雑砕。割截。五条。宗悟尼自肘之二肘四肘。宗悟沙

弥尼裁。天明二年丙寅三月二日成。

第二百七十九衣 後 武州下谷金杉安楽寺主通阿師護持。極小量。五条。紵布。割截。鳥足。天明二年成。尾州津島貞寿寺尼任声裁製。

第二百八十一。二。三。四。五。六。五条二。七条三。大衣一。開明門院御方護持之分。天明卯四月至八月成。

第三百四衣

青色。割截。五条。紵布。香山式叉護持。

第三百八衣

木蘭色。割截。五条。宗珠裁。天明五巳年。道智居士護持。

第三百十三衣

雑砕。五条。割截。馬歯。天明五年。

第三百二十八衣

古終布。壊色。中量。五条。割截。馬歯。天明五年十二月十七日。慧日式叉財体寄付。恵淳沙弥尼裁。

第三百三十九衣

紵布。五条。木蘭。小量。割截。宗珠尼裁。寿忍尼護持。天明六年。

第三百八十四衣

古終布。小量。木蘭。五条。天明八年二月成。真行裁縫。

第三百八十五衣

古終布。小量。五条。木蘭。馬歯。天明八年三月。励山尼裁縫。

第三百八十六衣

古終布。小量。五条。木蘭。馬歯。天明八年戊申四月。真行裁縫。

第三百八十八衣

古終布。極小量。五条。割截。木蘭色。天明八年戊申二月成。如月護持。

第三百九十衣

紵布。極小量。五条。木蘭。割截。馬歯。中峰尼裁縫施与。天明八年。

第四百十五衣

紵布。木蘭。極小。五条。割截。恵南沙弥尼。寛政元年己酉二月晦日。

第四百二十六衣

紵布。木蘭。五条。極小量。義憶尼裁。寛政元年己酉三月。

第四百三十五衣

紵布。木蘭。割截。五条。小量。門了尼裁。寛政元年己酉三月。

第四百三十六衣

紵布。割截。五条。財体義充尼供養。寛政元年酉四月。義充尼裁。

第四百三十八衣

紵布。小人自肘。極小量。五条。割裁。寛政元年己酉。杉原寿貞尼護持。

第四百三十九衣

古終布。極小量。木蘭。五条。割截。馬歯。寛政元年己酉四月二十九日成。れい山尼裁。

第四百四十三衣

紵布。木蘭。五条。割截。恵学尼裁。寛政元年酉六月晦日。

第四百四十七衣

紵布。木蘭。小量。五条。割截。財体中峰大尼供養。寛政元年酉六月成。

第四百五十二衣

紵布。壊色。小量。五条。割截。馬歯。寛政元年。

第四百六十三衣

古終布。木蘭。五条。割截。馬歯。寛政二年戌正月十三日成。恵上尼裁。

第四百七十二衣

紵布。極小人自肘。小量。五条。壊色。寛政二年戌正月晦日。恵上尼裁。

第四百七十五衣

紵布。木蘭。五条。小量。雑砕衣。寛政二年戌六月十七日成。宗珠裁。

第四百八十二衣

紵布。壊色。五条。小量。馬歯。施主たゝあこ谷妙照尼供養。寛政二戌八月七日成。恵忍尼裁。

第五百三衣 一

紵布。木蘭。五条。小量。雑砕衣。帖葉。大和上様御護持。宗珠裁。寛政二戌六月十七日成。

第五百十五衣 四

古終布。木蘭。五条。極小量。帖葉。馬歯。大和上様御護持。財体宗珠御供養申上る。寛政三年亥十二月十五日成。宗珠裁。

第五百二十二衣

紵布。木蘭。小量。五条。割截。馬歯。小山屋慈海居士護持。寛政四年子後二月二十八日成。宗珠裁。

第五百三十五衣

越後布。青色。五条。割截。小量。馬歯。財体智浄尼施。実堂式叉裁縫。寛政四年壬子十月十五日。

第五百四十衣

紵布。五条。木蘭。割截。馬歯。寛政四年壬子十一月二十日成。宗珠裁。浄智居士護持。

第五百四十九衣 無銘

古終布。極小安陀会。青色。襵葉。寛政五年丑三月。幻住居士自裁施焉。

第五百五十四衣

紵布。木蘭。小量。五条。割截。馬歯。寛政五年四月二十九日成。御厨屋村義俊尼裁。御厨屋邑浄源護持。

第五百五十八衣

紵布。木蘭。帖葉。五条。もうしやう。馬歯。寛政五年丑六月十七日。真行尼裁。

第五百五十九衣

越後。青色。五条。小量。馬歯。寛政五年丑六月。

第五百六十衣

紵布。木蘭。五条。有部也。外より願候に付十八日に是ヲとゝのへ遣さるゝ也。寛政五年丑六月二十八日。

第五百六十一衣

紵布。木蘭。五条。帖襵葉。馬歯。寛政五年丑六月二十九日。義像尼裁。

第五百六十九衣

古終布。五条。木蘭。襵葉。馬歯。寛政五年丑九月朔日。宗珠裁。財体槌屋喜兵衛是を供養す。

第五百七十二衣

屈襵。五条。木蘭。小量。寛政五年丑(マヽ)八日成。恵日式叉裁。財体恵くわん尼施。

第五百八十一衣

紵布。五条。小量。壊色。馬歯。寛政六年寅四月六日成。宗怡尼裁。

第五百八十五衣

紵布。木蘭。五条。割截。馬歯。寛政六年寅五月廿五日成。れい山尼裁。財体秀道律師護持。

第六百二十一衣

古終布。木蘭。極小安陀会。馬歯。寛政七年五月二十九日。真行裁。

第六百廿四衣

古終布。五条。木蘭。寛政七年。真行尼裁。

第六百三十三衣

細紵布。五条。木蘭。小量。馬歯。寛政七年卯十一月。義像尼裁。忍瑞比丘護持。

第六百三十九衣

紵布。木蘭。五条。小量。馬歯。寛政七年卯十二月。

第六百四十一衣

細紵布。木蘭。五条。小量。寛政八年辰正月廿三日。真学裁。

第六百六十一衣

越後。木蘭。割截。馬歯。五条。寛政八年辰六月五日。

第六百七十八衣

紵布。木蘭。五条。帖葉。極小量。寛政八辰八月十五日。門了裁。

第六百八十一衣

紵布。小量。五条。帖葉。木蘭。馬歯。寛政八年七月二日。女院御所にて御局方御寄合裁。

第七百三十七衣

古終布。五条。木蘭。小量。割截。馬歯。寛政十年午正月十一日成。恵元尼裁。

第七百四十三衣

越後。五条。極小量。木蘭。馬歯。寛政十年戊午二月三日成。真学尼裁。

第七百六十九衣

信州つむぎ木綿。五条。割截。馬歯。寛政十年午八月十七日。財体倉光□左衛門殿。実堂式叉裁。

第七百九十一衣 ཤ

紵布。木蘭。五条。小量。割截。馬歯。寛政十二年庚申正月四日。真学裁。

第七百九十三衣 ས

五条。寛政十二年庚申。京都にて成。

第七百九十四衣 ཧ

五条。寛政十二年庚申。京都にて成。

第八百五衣 ཨ ཧ ཨ

紵布。黄木蘭。五条。小量。割截。馬歯。寛政十二庚申五月十五日成。宗怡尼裁。財体宗珠供養し奉る。

第八百十六衣 ཧ

紵布。木蘭。割截。五条。馬歯。寛政十三酉二月成。宗実尼裁。

第八百十七衣 ཤ

紵布。木蘭。五条。割截。馬歯。寛政十三酉二月成。真学尼裁。

第八百二十七衣 ཧ

紵布。木蘭。五条。割截。馬歯。享和元年酉四月十四日。宗吟裁。

第八百二十八衣 ཧ

越後。五条。壊色。割截。馬歯。享和元年酉四月十四日。宗実裁。

第八百四十三衣 ཨ

紵布。木蘭。五条。割截。高井田安置。享和元年酉十月成。恵日尼裁。

第八百五十五衣 ཧ

紵布。木蘭。五条。割截。馬歯。享和二年戌四月成。宗与尼裁。

第八百五十六衣 ཧ

紵布。木蘭。五条。割截。馬歯。享和二年戌四月成。宗与尼裁。

第八百六十四衣 ཨ

紵布。縵衣。五条。割截。馬歯。享和二年戌四月成。宗実尼裁。

第八百六十六衣 ཨ

紵布。壊色。五条。割截。馬歯。享和二年戌五月成。宗与尼裁。

第八百八十三衣 ཏ

紵布。五条。木蘭。割截。馬歯。享和三亥年三月成。

第八百八十五衣 ཀ

越後。木蘭。五条。割截。馬歯。大和上様御護持。享和三亥年四月成。宗実沙弥裁。

第八百九十七衣 ཧ

紵布。木蘭。五条。割截。馬歯。享和三亥年七月十四日。真学裁。

第八百九十八衣 ཤ

紵布。黄木蘭。縵衣。五条。割截。馬歯。享和三年亥七月十六日。宗怡尼裁。郡山御部屋蘭の方護持。

第八百九十九衣 ཧ

紵布。木蘭。縵衣。五条。割截。馬歯。郡山御部屋蘭の方護持。

享和三年亥七月十六日成。宗怡尼裁。

第九百十五衣　ཀ

古終布。木蘭。五条。割截。馬歯。財体秀慶尼御供養す。享和三年亥十月六日成。秀慶尼裁。

第九百二十五衣　ཁ

紵布。木蘭。小量。五条。割截。馬歯。財体お蘭方実母供養。文化元年甲子二月二十五日成。

第九百六十七衣　ཏ

紵布。木蘭。五条。割截。馬歯。文化二乙丑九月。

第九百六十八衣　ཐ

紵布。木蘭。五条。割截。馬歯。文化二乙丑九月。

第九百七十衣　ད

紵布。木蘭。五条。割截。馬歯。文化二乙丑年。

第九百七十一衣　ན

紵布。木蘭。五条。割截。馬歯。文化二乙丑年。

第九百七十六衣　ཏ

木綿。木蘭。五条。割截。馬歯。文化二年。

第九百八十二衣　ཁ

木綿。木蘭。五条。文化二年。

第九百八十五衣　ཁ

紵布。青色。五条。文化二年。

第九百九十五衣　ད

紵布。木蘭。五条。割截。文化二年。

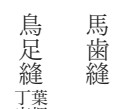
となる。色は木蘭七十三、青色九、壊色八、黄木蘭二で、木蘭が最も多い。割截衣が六十一あり、帖葉が十九、攝葉が三帖あり、帖攝葉、屈攝もみえる。縫い方は馬歯縫六十四、鳥足縫三で、馬歯縫が最も多い。衣財は紵布六十六、古終布十八、越後ちりめん五、麻一、布一であり、紵布が最も多い。大きさは竪二肘、横四肘で、極小二肘四肘、中量、小量二肘四肘、極小、飲光自肘極小量などと紹介されている。

製作された数の多い年次は安永三年（一七七四）に九帖が作られて以来、寛政五年（一七九三）、文化二年（一八〇五）に八帖、享和三年（一八〇三）に六帖、天明八年（一七八八）、寛政元年（一七八九）、同二年（一七九〇）に五帖、安永五年（一七七六）、同六年（一七七七）、寛政七年（一七九五）、同八年（一七九六）、同十二年（一八〇〇）、享和二年（一八〇二）に四帖が作られており、晩年に多くの五条衣が作られたことがわかる。

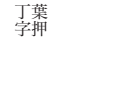
尊者の五条衣は『方服図儀』巻上に、

安陀会　五条。一長一短十隔割截作。或帖葉。或襵葉。新衣一重。故衣二重。若糞掃随レ意多重。若二日不レ成者得レ罪。

馬歯縫



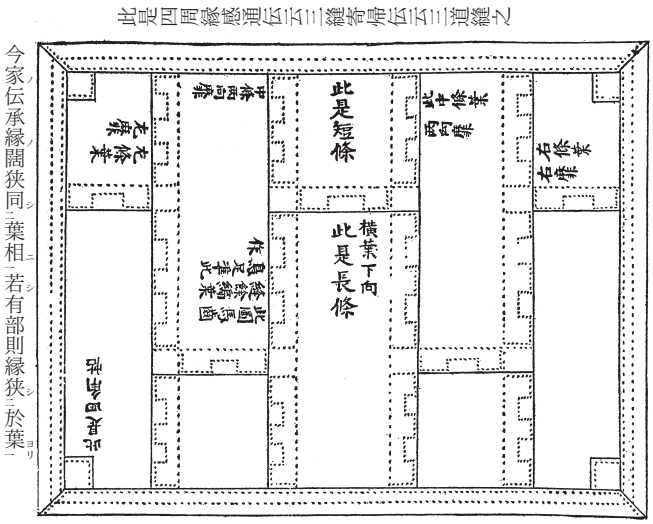
鳥足縫（葉押丁字）



伝説鳥足

編葉辺

此中馬歯全依二伝説一。編葉今新図出。鳥足縫準レ義改作。然文献不レ足レ徴　不レ免二臆説一。且録俟二他改正一

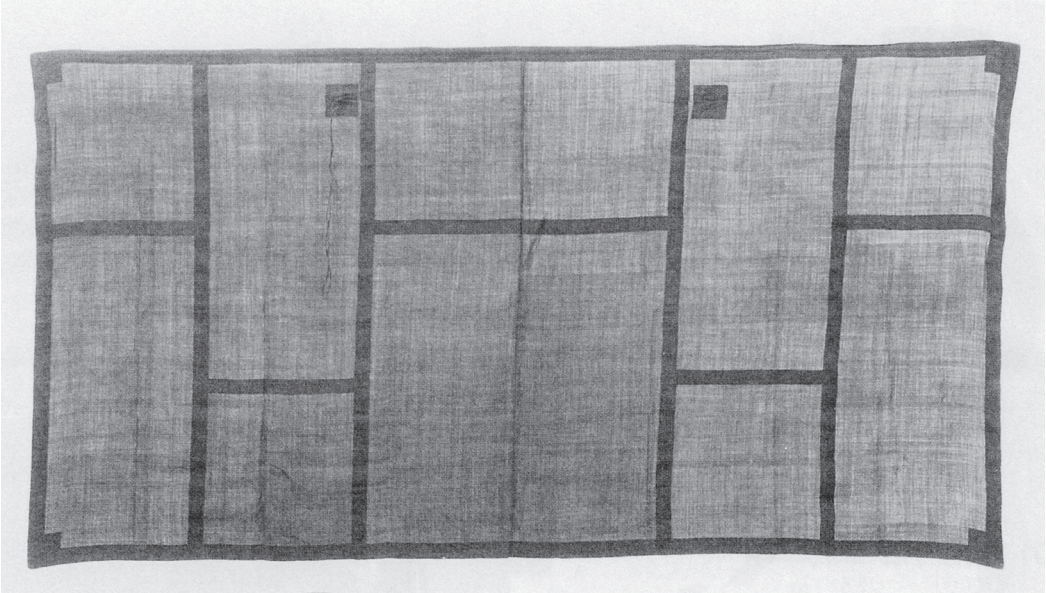


という。隔数、葉、縫い方などが記されているが、大きさは「第五取量準教」に、

局量者。長五肘広三肘上也。長四肘半広二肘半下也。極大長六肘広三肘半。極小安陀会長四広二。若過若減得レ罪。此肘須依二自肘一量之。

といい、長け五肘、広さ三肘であるが、長け四肘、広さ二肘の極小の安陀会も認めている。しかし、尊者の五条衣は現在、歴住寺院などに所蔵されていない[2]。それはなぜであろうか。院内道行作務衣、下衣の五条衣は普段搭けていたものであるため破損が多くあり、処分されたのではなかろうか。また、主たる袈裟ではないところから、二十五条衣や糞掃衣などが遺品の中心として残ったのではなかろうか。

そこで、尊者の影響を受けた一人の光雲海如[3]（一八〇三―七三）の五条衣をみたい。海如は文政十二年（一八一九）に長谷寺



海如の五条衣（竪94センチ、横190センチ）

の敞英について入壇灌頂し、同年尊者を嗣いだ智幢法樹の下で菩薩戒を、天保元年（一八三〇）には具足戒を受けた。天保七年（一八三六）には能満院に入住し律規を制定して山内を粛正し、高貴寺の僧坊寺務七世となり堂舎の修復に努めた。海如も千衣裁製をしており、筆者の入手した五条衣は、安政四年（一八五七）正月に本恭妙耀が蓋裏に

夫袈裟ハ仏々同道ノ章服、三乗ノ賢聖共ニ被奉スル所也。天竺震旦ハ置テ、日本ニハ鹿島ノ神兆ノ中ニ納メ、太神宮八幡宮共ニ尊重シテ名僧ノ袈裟ヲ乞タマヘリ。上宮太子役行者、常ニ身ヲ離チ玉ハス。是ヲ以テ其徳ヲハカリシルベシ。此衣海如律師施行千衣ノ随一ニシテ、衣角ノ中ニ舎利宝篋印陀羅尼ヲ納メ、修法加持シ自ラ年来被奉スル所也。時ニ佐波常照居士、円明姉ノ篤信ヲ感シテ授ケラレタリ。尓ハ一切吉凶ノコトニヨラス。常々頂戴供養シ、仏ノ如ク塔ノ如ク敬フヘキ仏制ヲ守ラハ、其獲福量リナカルヘシ。妊者病者臨終人年月厄難一切頂戴尊重シ永世ニ伝ヘテ恭ク家鎮トスヘシ。今箱成テ記ヲ余ニ乞フ。因テ記。

安政四年歳在丁己正月吉日　　本恭妙耀拝誌

と記しているところから、海如の千衣の一帖である。竪九十四センチ、横一九〇センチで竪二肘、横四肘の大きさである。木蘭色に染められた麻で、右隅には朱で小さく梵字が印されている。一長一短の割截衣であるが、葉は馬歯縫になっている。したがって、海如を通して尊者の五条衣が想像でき、掛絡とか守持衣では

なく偏袒右肩に搭ける竪二肘、横四肘の五条衣といえよう。

注

（1）「千衣裁製簿」は高貴寺に所蔵しているが、『慈雲尊者全集』第十六（大正十五年五月　高貴寺）二十九頁以下に翻刻されているのでそれによった。ここでは第八百九十八衣、第八百九十九衣のように「縵衣。五条」とあるものも採録した。なお、「同」とある場合は、前の衣と同じであるところから該当する項目や年月日などを記した。

（2）筆者は関係寺院に書簡で五条衣の有無を問合せしたが、高貴寺、長栄寺には所蔵していない旨の返信をいただいた。京都の長福寺、水薬師寺よりは返信がなく未詳である。

（3）光雲海如については田中海応『海如和上伝』（大正十三年十二月　徳蔵寺）、田中海応『海如和上言行録』（大正十三年十二月　徳蔵寺）があり参考となる。